

# 富山市の取り組み

## 〈学校の太陽光発電設備の概要〉

設置校数 : 市内小中学校91校中、7校設置

設置年度 : 平成13年度 1校 平成15年度 1校 平成17年度 1校  
平成19年度 1校 平成20年度 2校 平成21年度 1校

容量等 : 10kW 5校 5kW 1校(風力・太陽光のハイブリッド型)  
4kW 1校(風力・太陽光のハイブリッド型)

発電した電力の利用形態

施設内の動力の電力供給(冷蔵庫、エアコン等)

余剰電力の売電 : 一部実施

環境・エネルギー教育

エコスクール・パイロットモデル事業

- ・太陽光発電型、太陽熱利用型、省エネルギー・省資源型及び木材利用型 1校
- ・太陽光発電型、省エネルギー・省資源型 1校
- ・太陽光発電型、太陽熱利用型、その他新エネルギー活用型、省エネルギー・省資源型及び自然共生型 1校
- ・太陽光発電型、その他新エネルギー活用型、省エネルギー・省資源型及び資源リサイクル型 1校

NPO、ボランティア、企業等の協力 : 特になし

その他 : 特になし

## 〈富山市における取り組み〉

### [コンパクトなまちづくり]

富山市の施策の1つに、公共交通の活性化を軸としたコンパクトなまちづくりがある。平成18年には全国初のLRT(次世代型路面電車)となる富山ライトレールが開業し、また平成26年度末の北陸新幹線開業を見据え、公設民営の上下分離方式による軌道事業として全国初の認定を受けた路面電車環状線が平成21年末に運行を開始するなど、その着実な推進に努めている。

### [チーム富山市]

富山市では、温室効果ガスの大幅削減など低炭素社会の実現に向け、高い目標を掲げて先駆的な取組にチャレンジする「環境モデル都市」として、平成21年に「富山市環境モデル都市行動計画」を策定し、公共交通の活性化の推進、中心市街地や公共交通沿線への機能集積の推進、コンパクトな

まちづくりと一体となったエコライフの推進、エコ企業活動の推進を4本の柱として掲げ、基準年(2005年比)で2030年までに30%、2050年までに50%の温室効果ガスを削減することを目指している。

(チーム富山市とは)

平成20年6月発足。富山市役所をはじめ、市民、企業、団体から参加。

平成21年7月1日現在、275チーム、17,432人が登録(メンバー)。

目的:温室効果ガスの排出削減

おもな活動内容

「マイはし」運動の推進

外食時や弁当購入に際し、割りばしを使用したり受け取ったりせず「マイはし」を使用する

マイバッグの利用などの生活に密着したエコ活動

事業所での電気・燃料使用量の削減に取り組むエコオフィス活動など

## (学校への太陽光発電設備の導入)

太陽光発電システム等の新エネルギーの導入については、環境負荷の低減や自然との共生を図るだけでなく、環境への優しさに満ちた人材を育むうえで効果的な施策であるという教育的観点から、平成13年度の太陽光発電設備の設置を皮切りに、以降、校舎改築時には新エネルギーの活用に努めてきた。校舎改築等の学校施設の整備にあたっては、国のエコスクールパイロット・モデル事業制度を有効活用し、太陽光発電型、太陽熱利用型、その他新エネルギー活用型などさまざまな事業タイプで認定を受けつつ、積極的な導入に努めてきたところである。

設置した太陽光発電システム等の設備は、[理科や総合的な学習の時間等の授業で環境教育の教材として利用](#)されている。児童生徒からは「屋上の装置でこれだけの電気を起こしている」と、新エネルギーの利用を身近に感じる声が出ている。

中でも太陽光発電設備については平成22年4月現在、小学校6校、中学校1校に設置しており、いずれも校舎屋上の水平面に太陽電池モジュール(パネル)を置く、屋上設置型である。

発電容量については10kWが5校、5kW及び4kWの風力・太陽光のハイブリッドが各1校で、年間の総発電量は、発電容量10kWの設備1基あたりおよそ1万2000kW/hで、この値は市内の平均的な小・中学校1校の年間電気使用量の約7~9%にあたる。

設置に際しては、荷重による構造上のリスク、設置費用、維持管理面等での課題もあるが、環境教育への効果・影響は大きいため、「チーム富山市」の一員として今後とも、設計面での工夫で対応したり、国の補助制度等を活用したりしながら、校舎改築や大規模改造にあわせ、太陽光発電等の新エネルギー設備の導入を進めていきたいと考えている。

## [市立岩瀬小学校での取り組み]

ここでは、市立岩瀬小学校の取組を紹介する。

### 太陽光パワーが児童を出迎え

平成 15 年度の校舎改築にあわせ太陽光発電設備を設置した同校では、発電量等を表示するモニターが、登校時、最初に子どもたちの目にとまるよう、児童昇降口に設置されている。

「おはよう！」。子どもパワーと太陽光パワーみなぎる朝のスタート！  
エコな心が自然と育まれることを期待している。

### 清掃活動で郷土の海を美しく

同校は、本市の岩瀬浜海岸にほど近い場所にあることから、海辺の漂着物調査や海岸清掃など、郷土の自然を守る活動に積極的に参加している。

漁師町のかげがえのない宝である海を守り抜く心は、地域の清掃活動を通じてしっかりと受け継がれている。

### 交流活動で環境保全を学ぶ

市内中心部を南北に縦断する神通川の源流は、岐阜県高山市である。

この「川上」と「川下」の関係にある高山市立宮小学校との間で、交流活動を継続的に行っている。森林の養分を含んだ栄養満点の清流が、富山湾の豊かな生命を育てていることを知り、自然の営みへの感謝の念が生まれている。

「川にゴミを捨てないで！」という呼びかけは、海を間近に見て育つ子どもたちの切実な叫びである。不用意で、軽率な行動が、美しい自然環境を壊してしまうことを、岩瀬小学校の児童は肌で学んでいる。同校の犬島教頭は「環境に優しい人づくりこそ、環境を守る大きな力になる」と語っている。

## 〈今後の取り組み〉

本市では、環境教育に資する学校施設整備は未来につなぐ大切な取組だと考えている。国の環境施策もその重要性を踏まえ、積極的な支援策を盛り込んでいる。これらのことから、本市では、太陽光発電システムや風力等の新エネルギーを利用した学校施設の整備について、引き続き推進していきたいと考えている。